



「アリサの人形」1973年 個人蔵



「絵壺 雲について」1971年 個人蔵

没後25年 八木一夫展



「ザムザ氏の散歩」1954年 個人蔵



「雲の記憶」1959年 京都市美術館蔵

平成17年 **2/8** 火 ~ **3/27** 日

- 開館時間／9:00～17:00 (土曜日は19:00まで) 2月8日は10:00から ※入場は閉館の30分前まで
- 休 館 日／月曜日(3月21日は開館)
- 入 場 料／一般 1,000円(団体・前売 800円) 高・大学生 600円(団体・前売 400円)
小・中学生 400円(団体・前売 200円)(団体は20名以上)
※前売券は、広島市及び呉市の主なプレイガイド・画廊・画材店などでも販売しています。
- 主 催／広島県立美術館・日本経済新聞社・NHK広島放送局
- 協 力／司馬遼太郎記念館・ANA



広島県立美術館
HIROSHIMA PREFECTURAL ART MUSEUM

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL 082-221-6246
URL <http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/>
Mobile <http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/i/>

25年後 八木一夫展

平成17年

2/8
火
3/27
日

やきもので詩をつづった作家——八木一夫

八木一夫は大正7(1918)年、京都に生まれ、日本の陶芸界にオブジェという新たなジャンルを切り拓いた陶芸家です。伝統的な陶磁器に敬意と理解を示しながらも、前衛的要素を盛り込んだ作品を発表し続けました。昭和23(1948)年には、鈴木治や山田光らと走泥社を結成し、この前衛陶芸グループはその後、50年にわたって前衛陶芸を育てる役割を果たしました。

八木は幅広い数々の芸術家や文化人たちと交友関係を持ったことでも知られています。陶芸家の石黒宗麿、河井寛次郎や富本憲吉、彫刻家の堀口正和、イサム・ノグチなど、制作にも相互の影響がありました。また、司馬遼太郎は「八木一夫雑感」の文中で「天才」と評し、その仕事を「こちらを圧倒するほどに自分だけの思想を自分だけの言葉で語りつづける作品」と印象深く語っています。

本展では、初期から晩年までの陶芸、ブロンズ、版画、素描など約300点を一堂に展示し、ポエジーでアイロニーに富んだ八木一夫の造形世界を紹介します。



「白い面取りの茶盃」1976年 個人蔵



「円」1978年 京都市美術館蔵



「二口壺」1950年 京都国立近代美術館蔵



「いつも離陸の角度で」1977年 広島県立美術館蔵

講演会 1 (友の会共催)

日時: 2月12日(土) 13:30~

講師: 木村重信 (兵庫県立美術館館長)

テーマ: 「八木一夫の人と作品」

場所: 地階講堂

※聴講無料。ただし、1人につき1枚の往復はがきでの申し込みが必要です。1月29日(土)までの消印有効。応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。

講演会 2 (友の会共催)

日時: 2月26日(土) 13:30~

講師: 八木 明 (陶芸家・京都造形芸術大学教授)

テーマ: 「父を語る」

場所: 地階講堂

※聴講無料。ただし、1人につき1枚の往復はがきでの申し込みが必要です。2月12日(土)までの消印有効。応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。

ギャラリートーク

2月18日(金)、3月4日(金)、18日(金) 各回11:00~

※入館券が必要です。



○JR広島駅より約1km ○広島城より約400m
○市内電車(八丁堀で乗り換え)白鳥線で「縮景園前」下車約20m

広島県立美術館
HIROSHIMA PREFECTURAL ART MUSEUM

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL 082-221-6246

URL <http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/>

Mobile <http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/i/>



「示」1974年 個人蔵



「碑、妃」1962年 京都国立近代美術館蔵



「ご開帳」1972年 個人蔵



「盲亀」1964年 広島県立美術館蔵



「信楽大壺」1966年 滋賀県立陶芸の森蔵



「ニュートンの耳」1969年 個人蔵